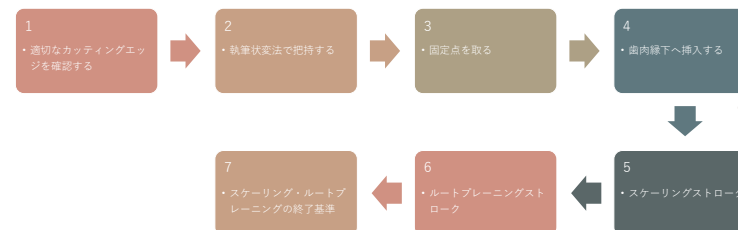


グレーシーキュレットの使用原則

23/3/16 22時39分

1

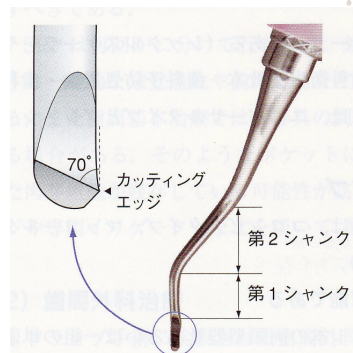
グレーシーキュレットの使用原則



23/3/16 22時39分

2

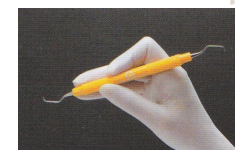
①適切なカッティングエッジを確認する



23/3/16 22時39分

3

②執筆状変法で把持する



親指と人差し指は向かい合うようにし、指がまるく弧を描くように

中指も器具に添え、薬指、小指も離さず脇につける

23/3/16 22時39分

4

★ 5分 ★

① **インスツルメントの把持**
= 執筆状変法 =

インスツルメントがコントロールしやすい ⇒ 歯周組織の損傷が最小限
【示指(人さし指)と中指に対し拇指でインスツルメントを歯根の外形にあわせて回転できる】

触感が良く、側方圧がかけやすい
⇒ 術者の疲労を少なくする
【中指の腹をインスツルメントの頸部に当てることで触感を高める】



23/3/16 22時39分

5

★ 5分 ★

③ **固定点を取る**

固定点をとるときのポイント

- 歯軸とスケーラーのターミナルシャンクは常に平行にする
- 固定点をとったら、ずれたり滑ったりしないようにしっかりと固定させる

23/3/16 22時39分

6

★ 5分 ★

③ **固定点を取る**



作業部付近への固定 反対側への固定 対合歯列への固定 他の指への固定

23/3/16 22時39分

7

★ 5分 ★

③ **固定点を取る**

手のひらを上に向けた口腔外固定 手のひらを下に向けた口腔外固定 保持固定



23/3/16 22時39分

8

③固定点を取る

作業部付近への固定 反対側への固定 対合歯列への固定 他の指への固定

23/3/16 22時39分

9

③固定点を取る

手のひらを上に向けた口腔外固定 手のひらを下に向けた口腔外固定 保持固定

23/3/16 22時39分

10

④歯肉縁下へ挿入する

- ・ 歯肉を傷つけたり、グレーシーキュレットのバックの部分でポケットの入り口を押し広げたりしないよう注意
- ・ スケーラーを軽く把持してできる限り、フェイスと根面を向かい合わせるようにしてポケット底まで入れる
- ・ 力を加えず探索ストロークで歯石を探索しながらゆっくり進めていく
- ・ ポケット底は少し抵抗があって、弾力があるように感じられることが多いが、炎症が強いと非常にやわらかくて捉えにくいこともある

23/3/16 22時39分

11

インストルメントの作業角度

グレーシーキュレットは第一シャックに対してブレードが70度になっているので、第一シャックをインストルメンテーションする面に平行にすると、カッチングエッジが歯面に適切な角度で当たっていることになる。歯肉縁下の処置ではカッチングエッジを直視できないので、第一シャックを指標にする。

「インストルメントの名称」
「ブレードの名称」▶ P.13

23/3/16 22時39分

12

★ 矢印は、2mm程度の短いストロークを意味し、それをくり返ししながらSRPをおこないます。

★ グレーシー13/14
臼歯部遠心面

斜行ストローク 垂直ストローク

★ 最後歯の遠心面
水平ストローク
斜行ストローク

水平ストローク 斜行ストローク

ブレード挿入点
遠心隅角部

★ グレーシー11/12
臼歯部頬/舌側面
/近心面

斜行ストローク 斜行ストローク 垂直ストローク

23/3/16 22時39分

13

⑤ スケーリングストローク

- ・ カuttingエッジを歯石の最も根尖側に咬ませて、強めの側方圧で“引く”操作を繰り返す
- ・ 刃先1/3に力を集中させる

23/3/16 22時39分

14

⑤ スケーリングストローク

- ・ カuttingエッジを歯石の最も根尖側に咬ませて、強めの側方圧で“引く”操作を繰り返す
- ・ 刃先1/3に力を集中させる

カuttingエッジの適合

カuttingエッジの先端1/3をつねに歯面に当てる。

後部1/3 中央部1/3 先端部1/3

先端部1/3の接触 中央部1/3の接触 先端部の接触

23/3/16 22時39分

15

側方圧のコントロール

◎ 歯石を除去する時の側方圧

強い

歯石がある時は強い力で。

弱い

弱いと取り残してしまう。

側方圧 歯石沈着が少量・パーニッシュされた歯石 ⇒ **強い**
変性セメント質・粗造面の除去 ⇒ **弱い**

One Point

多様な根面の状態、インスツルメンテーション中の根面の変化に応じて、側方圧をコントロールできることがインスツルメンテーションの上達ともいえる。

23/3/16 22時39分

16

第1シャングを歯面に対して平行にすれば、エッジは確実に歯石を捉えています。

① 挿入角度 0°~40°

★ キュレットのフェイスを歯面に沿うように当て、エクスプローリング(探知)するようなやさしい力で挿入する。

② SRP時角度 60°~80°

★ 第1シャングが歯面に平行。そのときフェイスは、根面に対して70°になっているため、カッピングエッジは確実に歯石を捉えている。

③ 側方圧と停止

★ エッジが歯石を捉えたら、側方圧を加えながら、短いストロークを加える。
★ ストローク終了は、引き抜くのではなく、確実に止めて終了する。

23/3/16 22時39分

17

挿入角度と作業角度

1. 歯肉線下への挿入時、フェイスと歯面の角度は 0~40°

2. 歯石除去時、フェイスと歯面の角度は 45~90°

23/3/16 22時39分

18

⑥ ルートプレーニングストローク

- 最終的に根面をスムーズにするため、軽くて均一な側方圧で“長く引き上げる”操作
- 垂直、斜め、水平のストロークを密に交差させて仕上げる

23/3/16 22時39分

19

ストローク

歯石除去する場合は、垂直、斜め(引く)のストロークで行うことが多いが、隅角部や凹部に水平ストロークを使用することもできる。

One Point

インストルメント中、使用中のキュレットの側方圧をごく弱くしてストロークすると、キュレットで歯石の探知をしながら処置することができる(インストルメンテーション後、最終的にはプローブ、エクスプローラーで確認する)。

23/3/16 22時39分

20

⑦ 終了基準

手指に伝わる感覚

ポケット内から出てくる歯石や血液の変化をみる

★Billion★ 23/3/16 22時39分

21

★Billion★

下顎前歯側 (右側遠心、左側近心)

サイドポジションではレストは頬側になり、インスツルメントの先端が上に向いてしまうのでコルにアクセスできない(*)。フロントポジションにするとレストが切端になり、第一シャックを歯面に平行にできるので歯肉線下のインスツルメンテーションができる(**)。(サイドポジション)

(*)

(**)

(フロントポジション)

23/3/16 22時39分

22

★Billion★

上顎前歯側 (右側遠心、左側近心)

サイドポジションではレストは作業側と同側になるため、インスツルメンテーションは押す方向になる。フロントポジションにするとレストが反対側になり引く方向で操作できる。

(サイドポジション バームアップ)

(フロントポジション バームダウン)

23/3/16 22時39分

23

★Billion★

効果的なSRPのためのポジションのとり方

図14-a 遠心の始置 (グレースケールなし) 12-2時

図14-b ハンドルが鼻にあたってしまい、歯肉線の下に届きにくい状態が多め。

図15-a 近心の始置 (グレースケールあり) 11-1時

図15-b 図14-a、b 2近心の始置にグレースケール#12(曲あり)を使用した場合、レストは乳、ポジションは11-1時になる。この場合、屈曲があるスクレーラーの方が、操作がしやすい。

23/3/16 22時39分

24